

事業所における自己評価結果

公表：令和5年4月12日

事業所名：スパークハウス上越ふじまき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	1	時間を分けている。
	②	職員の配置数は適切であるか	5	0	1対1の関わりにはしているがフリー対応を常に1人配置したい。利用人数に応じて職員のシフト調整している。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	二重ロックのカギを設置した。特性によっては情報が多いが楽しい空間にしている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	0	毎日掃除をしている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5	0	情報共有はしているがカンファレンスを定着したい。職員間の情報共有をしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5	0	アンケート等行った。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	3	2	わからない
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げている	0	5	第三者がいらない。外部評価を行っているかわからない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5	0	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	5	0	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	0	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5	0	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	
	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫している	5	0	遊びを工夫している。遊びなど常に探しながら生きている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	必ずではない。必要な時にしている。毎朝ミーティングしている。
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	4	1	時間を決めてないが情報共有はしている。職員の気づきを話し合っている。必ずはできていない。

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	サンガ入力
	㉓	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	モニタリング会議前に情報を出し合っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉔	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	管理者が参加している。
	㉕	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	他事業所、園と情報共有している。
	㉖	(医療ケアが必要な子どもの重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		3	対象なし。医療ケア見えない。重心のある子どもは利用していない。
	㉗	(医療ケアが必要な子どもの重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		3	対象なし。医療ケア見えない。重心のある子どもは利用していない。
	㉘	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	モニタリング会議している
	㉙	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	モニタリング会議している
	㉚	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	モニタリング会議している。連携して行っていない。
	㉛	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	5	コロナでしてない。それぞれ保育園などに通いながら利用してもらっている。
	㉜	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	5	コロナでしてない。地域のイベントがよくわからない。
	㉝	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	毎回フィードバックしている。療育後にフィードバックを行い。情報共有している。
	㉞	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3	保護者参加型
保護者への説明責任等	㉟	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	契約時に管理者がしている
	㊱	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	更新する際に、保護者へ説明を行っている。
	㊲	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	相談支援している。年に数回行っている。
	㊳	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	療育に参加してもらっている。保護者懇談会を実施予定。
	㊴	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	
	㊵	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	スパークだよりを出している。年に4.5回発行している。
	㊶	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	地域を対象には行っていない。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	毎月避難訓練を実施している。保護者に周知されていないかもしれない。保護者への周知のためにいる時間の避難訓練もしてる
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	毎月避難訓練を実施している。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	フェイスシートに情報あり。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている	3	2	医師の指示書はない。家庭より確認している。アレルギーのチェックをしている。医師の指示書が分からない。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	毎月ヒヤリハットを共有している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	3	今年を行う予定。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	1	4	契約する際に伝えている。身体拘束はしていないはず。わからない。対象の子がいない。